

✿ 平成18年 年頭のご挨拶 ✿



松井大悟

JSTT日本非開削技術協会 会長

新年明けましておめでとうございます。

平成元年に設立されたJSTTの理念は、「電力、ガス、通信、水道、下水道など地下パイプラインの調査、検査、建設、維持管理、マッピング等に関する非開削技術情報の交流により、わが国の地下利用技術の進歩、および安全性の向上を図り、広く社会公共の福祉の増進に寄与すること」となっています。さらにJSTTの16年に及ぶ活動の中で非開削技術が環境の保全に貢献すると認識されてきました。非開削技術は、建設発生土の抑制、工期の短縮、騒音の軽減、景観の維持が保たれる等環境にやさしい技術であるとの評価を受けております。さらに交通事情や埋設深度等の条件により多くの場合開削工法に比べ経済的な工法です。今後この両面の評価をさらに上げるべく努力していきたいと思っています。国際非開削技術協会も広報においてこの両面を強調しています。この評価は国際的にも認められつつあり国連のUNEP（国連環境計画）において、この技術は環境に寄与する技術として認識されております。

会員の技術情報の交流や発信のため、従来から季刊誌の発行、技術研究発表会の開催、国際会議への出席、近隣諸国との交流、ホームページの充実を図っておりますがこれらをさらに充実させていきます。

昨年の研究発表会におきましては27件の応募がありこれらを6部門に分けて発表していただきました。内容は非常に高度でかつ多くの分野をカバーし日本の非開削技術の状況が把握できる貴重な論文集となりました。

季刊誌はタイトルを「非開削技術」から「No-Dig Today」に改めて3年目になりますが、編集委員会・

編集企画小委員会の各委員の努力により内容が充実してきたとうれしく思っています。道路を管理されている方々にさらに配布先を広げて、非開削技術の環境保全の役割について理解を得られることを期待しております。「道路を掘らない技がここにある」をキャッチフレーズに非開削技術の普及をさらに発展させるよう今年も努力していく所存です。

ホームページは外国の情報をさらに充実させるとともに、インターネットを利用して推進工法の設計をサポートする「工法ナビゲーションシステム」の運用が本格化していますがさらに改築更新技術も加え充実を図っています。今年も会員の意向に沿った施策を行いたいと思っています。

また本年は10月にオーストラリア・シドニーでNo-Dig2006が開催されます。今回は久しぶりにアジア地区で開催されます。私は担当の理事ですので、アジアセッションを設けアジアと世界の交流をはかろうと企画しています。今年より中国が北京、上海、広州の3地区が会員になり香港、台湾、インド、豪州、日本とアジアは5カ国8地区と増加しています。多くの情報が得られると思います。会員の積極的な参加を期待しております。参加者が多ければ日本語との同時通訳も準備できると思います。

今年も気持ちをあらたにして遠山名誉会長、楠田、篠原、石川各副会長のご支援を得て協会の発展に努力をしていく所存です。宜しく願いいたします。日本におきましても、インフラの構築・維持のためには非開削技術の必要性はますます高まっています。会員の皆様におかれましても、この流れに乗り新しい年こそ飛躍の年になることを祈念して私の挨拶といたします。